

岩手県

(全域)

施設ピーマンの天敵製剤と物理的防除を組み合わせた害虫防除

【1. 概要】

- ・高品質生産と化学合成農薬の使用回数の削減のために、天敵製剤と物理的防除対策を組み合わせたアザミウマ類の防除技術を確立
- ・スワルスキーカブリダニの導入面積は6.0ha(H24年比で113%、施設栽培面積に占める割合19.6%)

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・高品質生産と化学合成農薬の使用回数の削減のために、天敵製剤を活用した害虫防除技術の確立が求められている
- ・天敵製剤を上手に活用する条件等の解明と、物理的防除資材の併用によるアザミウマ類の防除技術を確立し、ピーマンの高品質生産を支援した(図1)

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・天敵導入時のコストを抑えるため、岩手県でのスワルスキーカブリダニ1回放飼での定着条件(放飼時の株あたりの開花数や温度、湿度)を解明し、現地農家圃場での防除効果確認等を積極的に行った
- ・現地検討会、研修会を開催し、上記条件等を研究者が直接提供することで、農業者の理解醸成が図られ、技術導入が進んだ(図2)

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・IPM技術導入農家では、化学合成農薬による慣行防除と比較して、被害果の発生割合、防除回数ともに約4割削減することができた(表1)
- ・岩手県のピーマン栽培面積は126.7haだが、このうち、施設栽培面積32.6haに占める天敵の導入率は19.6%である



図1. アザミウマ類幼虫を捕食するスワルスキーカブリダニ



図2. 天敵利用研修会

	被害果発生率		防除回数	
	IPM	慣行	IPM	慣行
導入農家A	2.8	9.6	2	4
導入農家B	2.4	3.5	1	4
平均	2.6	6.6	1.5	4.0
削減率	60%		63%	

表1. 導入農家でのアザミウマ類被害果発生率と防除回数

【問い合わせ先】

農林水産部農業普及技術課
電話：019-629-5654